

## ■ 会社情報 (2019年6月30日現在)

会社名	株式会社ソディック	資本金	207億8,525万6,958円
所在地	本社 〒224-8522 横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号 TEL:045-942-3111(代表)	代表者	古川 健一
設立	1976年8月3日	従業員数	801人(連結3,625人)
		連結子会社	21社
		持分法適用の関連会社	1社

## 役員

代表取締役会長	金子 雄二	社外取締役	栗原 俊明※
代表取締役社長	古川 健一	社外取締役	古田 勝久※
代表取締役副社長	高木 圭介	社外取締役	稲崎 一郎※
専務取締役(上席執行役員)	松井 孝	社外取締役	工藤 和直※
常務取締役(上席執行役員)	前島 裕史	常勤監査役	保坂 昭夫
常務取締役(上席執行役員)	塚本 英樹	常勤監査役	渡貫 雄一
常務取締役(上席執行役員)	梅本 慶三	監査役	下條 正浩※
取締役	黄 錦華	監査役	長嶋 隆※
		監査役	奥山 富夫

※東京証券取引所の定める独立役員であります。



### 英国営業拠点 Sodick Europe Ltd. (U.K.) の新テックセンター完成

欧州の中心的営業拠点である販売子会社 Sodick Europe Ltd. (U.K.) (英国ウェスト・ミッドランズ州ウォリック市) の新テックセンターを竣工しました。同社は、欧州全域を統括する重要な営業拠点であり、テックセンター新設によって、営業、サービス、顧客サポートなどの強化により欧州における事業展開をさらに加速させ、当地におけるソディックブランドの向上にも寄与するものと期待しています。



株式会社 ソディック

〒224-8522  
横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号  
TEL:045-942-3111



# Sodick Times

2019年12月期(第44期)中間報告書  
2019年1月1日～2019年6月30日



安全・安心・健康な美味しい食文化を創造する  
食品機械事業

株式会社 ソディック

東証1部:6143



代表取締役社長  
古川 健一



0.1 第2四半期の全体業績と各事業の状況について教えてください。

第2四半期は、国内、海外ともに米中貿易摩擦等の政策要因により、各地域とも輸出や生産活動に弱さが見られ、当初計画を下回る進捗となりました。

工作機械事業は、高度化、自動化へのニーズは依然として高いものの、米中貿易摩擦による設備投資判断の先送りや、スマートフォン、電子部品向け需要の減少及び、自動車関連も弱さが見られ、放電加工機の販売が大きく減少しました。その一方で、北米の航空宇宙関連、医療機器関連は引き続き堅調だったほか、タイ、インド、ベトナムでは自動車関連を中心に底堅く推移しました。

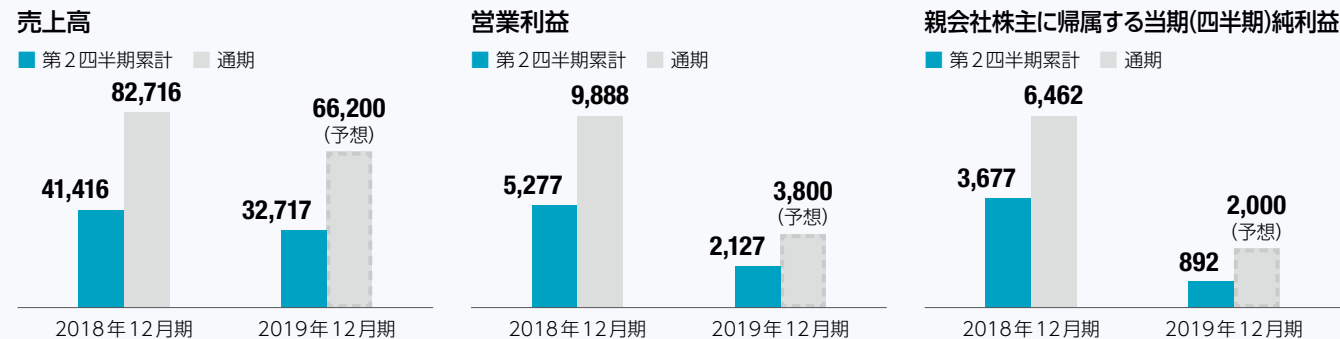
産業機械事業では、コネクタやセンサー部品など自動車

関連の需要が、国内を中心に堅調に推移したものの、工作機械事業同様に、設備投資の鈍化が顕在化し、スマートフォン、電子部品関連の需要に一服感が見られました。しかし、光学レンズの成形や防水対応用シリコン成形機、5G対応インフラ整備といった新たな需要が出始めています。また、医療機器関連では北米で堅調な需要が継続しました。

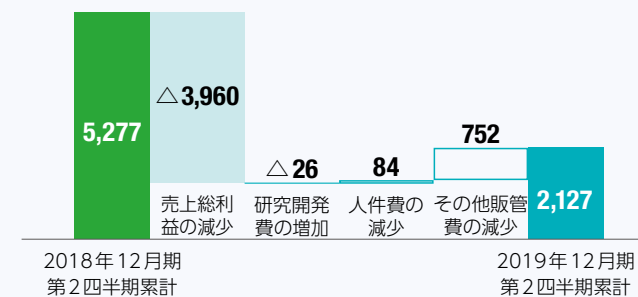
食品機械事業では、高品質な調理麺の製造設備需要が引き続き堅調に推移したほか、包装米飯製造装置の需要も国内外で増加しています。また、衛生面や省人化を目的とした自動化設備の需要も拡大しました。しかし、受注が下期以降にずれ込んだ案件もあり、売上高、セグメント利益ともに伸び悩みました。

以上の結果、第2四半期の業績は、売上高327億17百万円、営業利益21億27百万円、経常利益20億73百万円、当期純利益8億92百万円と前年同期比で大きく減少しました。

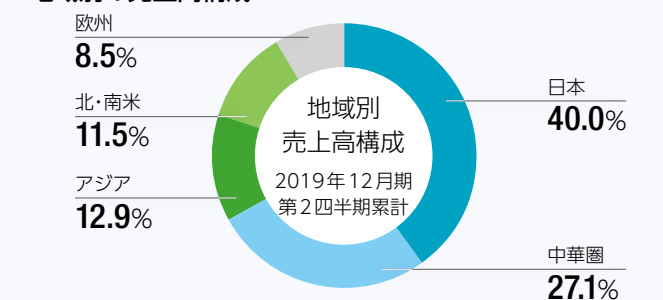
■ 連結損益計算書の概要 (単位:百万円)



■ 営業利益変動要因



■ 地域別の売上高構成



## Q.2 当期の重点施策とその進捗はいかがでしょうか。

ソディックブランド強化のため積極的な営業活動を展開。

営業面では、東京ビッグサイトで開催されたINTERMOLD2019／金型展2019や、中国・北京での世界的な工作機械見本市のCIMT2019など、国内外の展示会に出展しソディックブランドの強化・シェア拡大に向けた取り組みを推進しました。

技術面では、新電源、新世代CNC等の新たな要素技術の開発、金属3Dプリンタ関連の研究開発、次世代技術の開発強化を進めており、金属3Dプリンタの加工では避けて通れない造形物内部の残留応力を抑制する新技術「SRT工法」を開発し、特許を取得しました。この技術により、プラスチック成形金型部品への造形適用範囲を大きく広げることが可能となりました。今後も3Dプリンタの拡販に注力してまいります。

## Q.3 足もとの市場環境及び通期の業績見通しについてお聞かせください。

下期以降も、世界的な景気弱含みの継続が予想されるため、通期業績計画を修正。

全社を挙げて、業績確保に努めてまいります。

米中の通商問題、英国のEU離脱問題などを発端とする世界的な景気の弱含みにより、第2四半期の業績は、期初の業績予想に対し大幅な未達となりました。下期以降も景気の停滞が継続することが見込まれるため通期業績予想を以下のように修正いたしました。

工作機械事業は、中国をはじめ、各地域において厳しい状況が続くと予想される一方で、産業機械事業は、光学レンズやシリコン成形需要、5G対応の需要の取り込みにより、下期はやや回復基調となることを見込まれ

ます。また、食品機械事業は、製麺機、包装米飯製造装置の検収が下期に予定され、売上高、利益ともに回復する計画です。

全体としては弱含まれる市場において、各事業セグメントにおいてできるだけ業績確保に努めるとともに、需要の増加が見込まれる分野などを中心に業績の拡大に励んでまいります。

(単位:百万円)

	2019年12月期通期業績予想		増減
	期初計画	修正計画	
売上高	76,800	66,200	△10,600
営業利益	6,900	3,800	△3,100
経常利益	6,400	3,600	△2,800
当期利益	4,700	2,000	△2,700

## Q.4 株主還元のお考えと株主様へのメッセージをお願いします。

株主資本配当率2%以上を目標として、将来の事業展開と経営体質の強化のための内部留保を確保しつつ、安定的かつ継続的な配当を実施することを基本方針としています。当期の中間配当は1株につき12円とさせていただき、期末配当は、13円(年間配当は前期比1円の増配)を予定しております。

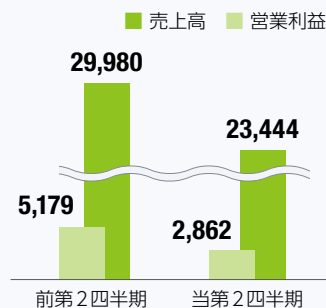
株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## ■ セグメント別の概況 (単位:百万円)

### 工作機械事業

放電加工機、マシニングセンタ、金属3Dプリンタ等の開発・製造・販売

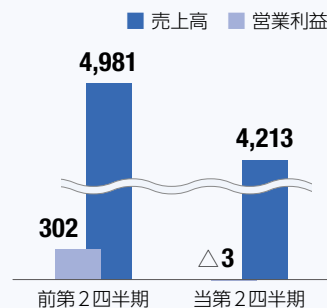
- 中国・日本・アジア・欧州／放電加工機の販売が大幅に減少
- 北米／航空宇宙関連、医療機器関連が堅調
- アジア／自動車関連を中心に底堅く推移



### 産業機械事業

射出成形機等の開発・製造・販売

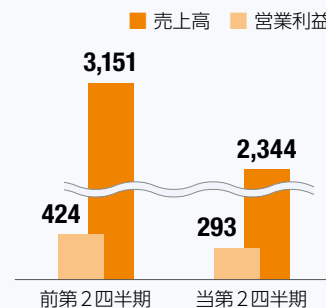
- 自動車関連／日本での需要堅調
- スマートフォン・電子部品関連／中国・アジアの需要に一服感
- 医療機器関連／北米での需要堅調



### 食品機械事業

種製造プラント、製麺機、包装米飯製造装置等の食品機械の開発・製造・販売

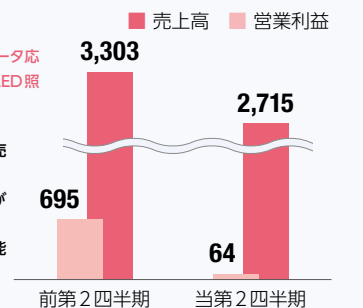
- 高品質な調理種の製造設備需要が堅調
- 国内外での包装米飯製造装置の需要増
- 自動化設備の需要拡大
- 受注のずれ込みにより、売上高、利益ともに伸び悩み



### その他事業

プラスチック成形品等の製造・販売、リニアモータ応用製品、セラミックス製品及びその制御機器、LED照明等の開発・製造・販売、当社製品等のリース

- 自動車関連で一服感があり金型成形事業売上高減少
- セラミックスの販売も半導体製造装置向けが減速
- 中長期的な事業拡大に向けた製造設備の能力増強が先行



# 食品機械 事業

当社の一翼を担う、食品機械事業は年々事業規模を拡大しています。今回の特集では、食品製造の現場をサポートする食品機械事業の取り組みについて、7月に開催した「FOOMA JAPAN 2019」や新製品「粉体冷却装置」の開発を中心にご紹介します。

## ！ 「FOOMA JAPAN 2019 国際食品工業展」に出展



当社は、2019年7月9日～12日に東京ビッグサイトで開催された「FOOMA JAPAN 2019 国際食品工業展」に出展し、新製品の「粉体冷却装置」をはじめ、包装米飯製造装置の一部である加圧装置や、洗浄機能付き真空ミキサ、FOOMA展初披露となるLED検査コンベヤ、自動化・省人化を実現するトレーフィーダー+麵ほぐし機など、様々な機械を展示いたしました。会場では新製品の「粉体冷却装置」のデモンストレーションを行い、実際に粉を冷却する工程を披露するなど、多くの来場者の関心を集めました。

する食品機械事業の取り組みについて、



## ！ 食品機械事業の今後の展開

当社は、食品メーカーやコンビニエンスストア、外食チェーンなど向けの製麺設備・包装米飯設備を中心にお客様の“欲しい”から生まれるニーズに応え、600機種以上の食品機械を提供してまいりました。

従来の主要顧客である製麺、米飯業界に加え、製パン、製菓業界や、中食市場にも食品機械事業を積極的に展開し、今後も安全で安心な美味しい食文化と健康な生活の創造に貢献してまいります。また、省人化・衛生面向上のための自動化設備への取り組みや、中国・アジアでの高付加価値製品の需要開拓など海外での販売拡大をめざします。

## ！ 業界初！粉粒体温度の直接管理を実現する「粉体冷却装置」を開発

FOOMA展にも出展した新製品「粉体冷却装置 (CHB)」は、小麦粉など原料粉粒体を迅速・均一に冷却する業界初の装置です。

製麺、製パン、製菓業界の製造現場において、原材料の温度管理は最終製品の品質に大きく影響する重要な工程であり、原材料入荷後に空調設備倉庫で数日間保管し温度を下げるといった対策がとられていますが、倉庫内保管にかかる時間や空調コストが課題となっていました。

その課題に対応するため、粉粒体そのものを冷却する装置を開発しました。粉粒体が保持している水分の一部を強制的に蒸発させることで、粉粒

体を冷却する構造で、例えば、35℃前後の粉粒体を約15分間で20～25℃に均一に冷却して温度を安定させることができます。現状、多くの製造現場では生地温度をコントロールするため室温を20℃前後に維持していますが、粉粒体の温度を直接管理できるのは本装置が業界では初めてです。

本装置は、小麦粉、そば粉、米粉、米粒、そばの実、大豆など、ほとんどの粉粒体状の食品素材に対応しており、製麺、米飯業界に加え、製パン、製菓業界への展開も期待しています。



◀ 粉体冷却装置



## ソディックの現場から

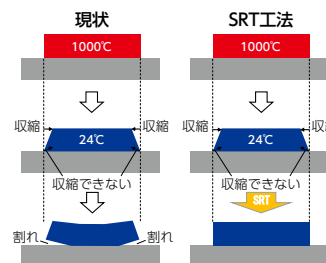
### 大型金型部品の安定造形を可能とする「SRT工法※」を開発

今回は金属3Dプリンタの「SRT工法」について開発担当者をご説明します。

#### ■ 「SRT工法」とは？

金属3Dプリンタでは造形中、造形物に強大な応力が発生します。この主な原因は、金属3Dプリンタの造形原理に由来します。

金属3Dプリンタでは、レーザー光を照射して金属粉末を1000℃以上の高温にし溶かして造形します。溶けた金属は固まる際に大きく収縮しますが、下部には土台があるの



で収縮することができません。このため金属に強大な力が加わり、時には割れが発生します。

SRT工法を用いると、収縮した金属を膨張させることによりもとの状態に戻すことができます。

#### ■ 「SRT工法」開発の経緯を教えてください。

当社では金属3Dプリンタ販売当初から、2種類の材料として代表的なステンレス鋼のSUS420J2とマルエージング鋼に対応していました。2つの材料とも、どのような大きさや形状でも造形できるわけではなく、造形方法に大きな制限がありました。この制限はSUS420J2の方が厳密で、世界標

準のマルエージング鋼が主流でした。

しかし、多くのお客様からプラスチック金型の主流材料であるSUS420J2を使用したいとのご要望/ご期待、さらにご支援をいただく機会があり、開発いたしました。

#### ■ 「SRT工法」の開発によって、どんな効果が期待できますか。

世界の金属3Dプリンタメーカーやユーザーが、金属の収縮による割れや変形に悩んでおり、強大な力が加わっても割れにくいマルエージング鋼を使用していますが、マルエージング鋼を用いても割れや変形の問題がまったくないわけではありません。また、価格も高額であり、プラスチック金型の場合にはSUS420J2系などの材料を使用したいと考えています。

SRT工法はこのSUS420J2材料に対応しており、当社の金属3Dプリンタ製品全てで使用できるため、プラスチック成形金型部品への造形適用範囲を大きく広げることができ、金属3Dプリンタの販売増加に寄与するものと期待を寄せています。

DDM事業部 副事業部長  
新家 一朗



※ SRT工法: Stress (応力) Relief (解放) Technology (技術)

当第2四半期の業績について

米中貿易摩擦など、世界的な景気不透明感の影響を受け減収。販売台数減少に伴う工場稼働率低下、固定費割合増により利益面でも厳しい進捗となりました。

売上高 327.17 億 百万円

営業利益 21.27 億 百万円

#### 連結貸借対照表の概要 (単位:百万円)

##### 資産の部

資産合計	119,082	資産合計	115,896
流動資産	79,946	流動資産	76,464
固定資産	39,136	固定資産	39,432

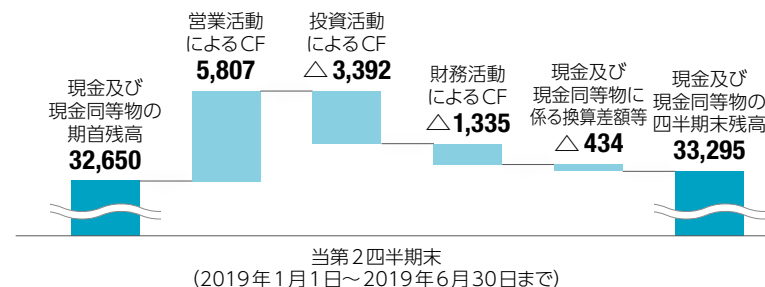
前期末 2018年12月31日      当第2四半期末 2019年6月30日

##### 負債・純資産の部

負債・純資産合計	119,082	負債・純資産合計	115,896
流動負債	31,804	流動負債	29,017
固定負債	29,148	固定負債	29,226
純資産	58,129	純資産	57,652

前期末 2018年12月31日      当第2四半期末 2019年6月30日

#### 連結キャッシュ・フロー(CF)計算書の概要 (単位:百万円)



**POINT** B/S:欧州テックセンター建設や宮崎工場(精密金型・成形事業)の増築などにより、固定資産が増加するも、売上債権及びたな卸資産等の減少により総資産は前年同期比31億86百万円減少。前期末に比べ円高に推移したことにより、海外子会社の資本金等の換算により生じる為替換算調整勘定が減少したことで、純資産は微減。

**POINT** 営業CFは、売上債権の減少等により58億7百万円のプラス。投資CFは、有形固定資産の取得等により、33億92百万円のマイナス。財務CFは、長期借入金の返済等により13億35百万円のマイナス。現金及び現金同等物の四半期末残高は前期末比で6億45百万円増の332億95百万円となりました。

IRサイトでさらに詳しく

IRサイトでは、決算短信、決算説明資料など更に詳しい決算情報をご覧になれます

[https://www.sodick.co.jp/ir/ir\\_note.html](https://www.sodick.co.jp/ir/ir_note.html)

ソディックIR

検索





事業部訪問：コーポレート本部 社長室

株主・投資家の皆様にIR情報を分かりやすく発信



社長室 武田 有未

ソディックを支える各事業部での業務を紹介します！今回は社長室です。

**Q** 業務内容について教えてください。

**A** 主にIR業務（投資家向け広報）を行っています。具体的には、決算短信や有価証券報告書、決算説明会資料、統合レポートなど開示資料の作成のほか、国内外でのIR面談対応や、決算説明会・投資家向け工場見学会などの運営に携わっています。

**Q** 業務上、どのような点に苦労しますか？

**A** あらゆる角度から当社のことをよく知らないと会社の説明はできません。財務・会計の知識だけでなく、当社の製品や技術についても深く理解する必要があります。私は、文系出身なので、技術的な内容を、理解するのは時間を要しますが、新製品や新技術に対しては、各事業部から情報収集し、日々勉強しています。

**Q** 仕事でのやりがいは？

**A** 会社の経営方針や経営成績、成長戦略などを外部に開示・説明する仕事をしているので、日々の業務の中で、経営トップと非常に近い距離で仕事をできることがやりがいのひとつです。経営成績に加え、中長期的なビジョンや重点施策などに関して経営トップから発信される情報をまとめ、外部開示用資料に落とし込み説明する作業は複雑で難しいところもありますが、それをうまく外部に発信できたときには非常に達成感を感じます。

また、決算関連の資料や統合レポートを作成するにあたっては、社内のあらゆる部署との連携が必要になります。各部署との速やかな連携や信頼関係の構築は非常に大変ですが、社内での横のつながりが広がることで、その後の仕事もスムーズにできます。

**Q** 職場環境はいかがですか？

**A** 決算発表前後は資料作成やIR面談対応など非常に忙しいですが、繁忙期ではない時期は、残業はほとんどせずに終業後の時間を趣味のバレーボールや映画鑑賞、友人との食事に充てたりとプライベートも非常に充実できており、ワークライフバランスの取れた生活を送っています。

また、様々なことに挑戦できる環境も整っており、社内勉強会や外部のセミナーなど業務に関連する知識習得のために積極的に参加しています。昨年は、社内の海外研修制度を利用して、タイ工場と英国の営業拠点で研修を行いました。主力のタイ工場では、実際に基板製造ラインで部品のインサート作業を行ったり、調達部門で資材の搬入搬出の流れを学んだり、放電加工機の生産の流れを理解できました。また、英国の営業拠点では、欧州での販売の仕組みを学び、展示会への参加や客先同行等を通して、欧州での市場環境や当社のプレゼンスについて理解を深めました。この研修を通して学んだことを今後のIR活動の中で大いに生かしていきたいと思っています。



■ 株式情報 (2019年6月30日現在)

株式情報

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式総数	53,450,916株
株主数	11,815名

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	1月1日～12月31日
株主確定日	● 定時株主総会、期末配当金：12月31日 ● 中間配当金：6月30日 毎年3月
定時株主総会 公告の方法 (公告掲載URL)	電子公告により行う <a href="https://www.sodick.co.jp/ir-f.html">https://www.sodick.co.jp/ir-f.html</a> ※ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。

大株主

株主名	名寄株式数(株)	持株比率(%)
株式会社ソディック	6,407,629	11.99
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,403,100	4.50
日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口)	1,975,300	3.70
UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT	1,103,000	2.06
RE FUND 107-CLIENT AC	959,845	1.80
ソディック共栄持株会	931,000	1.74
有限会社ティ・エフ	895,000	1.67
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	850,397	1.59
株式会社三井住友銀行	850,000	1.59
日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口5)	843,800	1.58

株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
同連絡先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324 (通話料無料)
特別口座の管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都府中市日鋼町1-1 新東京郵便局私書箱29号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第1部 証券コード:6143

ソディック ホームページ 「IR情報」のご案内 株主・投資家様向けの情報を開示しています。是非ご覧ください。  
<https://www.sodick.co.jp/ir/>